

令和6年度 自己評価書及び学校関係者評価書

令和7年3月6日

札幌市立北の沢小学校

1. 本年度の重点目標

幸せ感じる学校～〈学び・心と体の支え〉あいあふれる子の育成～

2. 本年度の経営方針～重点目標の具現に向けて

学ぶ力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・課題単級的な学習の充実 ・個別最適・協働的な学びの（一体的な）充実 ・ICTの効果的な活用 ・基礎学力・学習習慣づくり
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育の充実 ・自治的な活動の促進 ・豊かな感性・社会性を育む活動の充実 ・言葉を大切にした生活
健やかな身体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業の充実 ・体を動かす機会の創出 ・健康教育の充実 ・安全教育の充実

3. 自己評価結果に対する学校関係者評価

Aよくあてはまる Bややあてはまる Cあまりあてはまらない D全くあてはまらない

評価項目	年度内・次年度に向けての重点	評価	達成状況と改善策		学校関係者評価 自己評価の適切さ 改善策の適切さ
			達成状況	改善策	
「学ぶ力」育成プログラム	子どもたちは、課題探究学習において、課題と見通しをもって、自ら学習を進めていたか。	B	・見通しのものせ方の共通理解	・これまでの2年間行なってきた授業改善の取組の在り方を見直す。課題探究学習におけるAARについて追求していく。指導案を作成したうえで、1～2回の授業検討を行い、授業を行う。授業後の話合いは行わず、クラスマート内に書き込みを行なうという形となる。	A A
	子どもたちは、課題探究学習において、多様な考えに触れ、自分の考えを見直しながら、課題を追求していたか。	B	・自分の考え方を見直す場の設定 ・主観的に学び、自己調整としての「見直し」の共通理解	・指導案検討や意欲をもたらせる働きかけや指導方法の工夫について研鑽を積む。	A A
	子どもたちは、課題探究学習において、学習を振り返り、学んだことのよさや自分の成長を実感していたか。	B	・効果的、効率的な「振り返り」についてのショート研修	・「計算チャレンジ」の継続と実施に応じた取り組み方の工夫を共有していく。	A A
	子どもたちは、ICT機器を学習用具として使いこなし、自らの学習に役立てていたか。	A	・楽々段階に応じた系統立てた入力指導と個人に応じた対応 ・オクリックンクプラスの積極的活用	・端末の課題とプリントによる課題に、それぞれのよさを理解した上でバランスよく取り組ませていく。端末の課題を行うときには、取組に様子が把握できるようにする。プリントによる課題では、その場で担任が確認することで、児童に寄り添ったきめ細やかな指導ができるだけでなく、取組に対する児童への評価も大切にすることを考える。	A A
	子どもたちは、朝活動や家庭学習（宿題）などを通して、基礎学力が定着したり、よりよい学習習慣が身に付いたりしたか。	B	・小テストと宿題や家庭学習との連動 ・計算力の向上を中心とした学年に対応した取組 ・端末の持ち帰り頻度を高める学校全体の取組	・計算力の向上を中心とした学年に対応した取組 ・「計算チャレンジ」の継続と実施に応じた取り組み方の工夫を共有していく。	A A
「豊かな心」育成プログラム	子どもたちは、「考へ、議論する道徳の授業」を通して、道徳的価値について考え、自分の生活を見つめ直していたか。	A	・ふわふわカードと道徳の振り返りカードの活用	・「ふわふわカード」の取組を通して、他者のよいところに目を向けられるようになった。今後もテーマを工夫しながら継続していく。また、道徳の振り返りカードでは、自分の生活を見つめ直す機会として、ただ書かせるだけではなく価値付け大事にしたい。	A A
	子どもたちは、学級・委員会活動や総合的な学習などの自治的な活動を通して、自分たちで考え、より良い生活を追求していたか。	A	・自治的活動の場と時間の確保	・高学年はプロジェクトチーム作り、低学年は係活動などを通して自治的活動の場を確保することがある。今後は、自治的活動を更に充実させ、活動の幅を広げられるように、情報共有できる場を設けられるよう。	A A
	子どもたちは、文化や芸術、地域のよさを感じる活動、奉仕の活動を通して、豊かな感性や社会性を身に付けていたか。	A	・行事ごとの振り返り活用 ・地域のよさを感じるカリキュラムの見直しや教師による価値付け	・カリキュラムの見直し等に基づく指導や取組により、総合的な学習や生活科の学習等を通して、自然豊かな地域の特徴を実感し、地域の方と触れ合いながら、社会性を身に付けるよい機会となっている。児童アンケートの結果にも改善の兆しが見られている。スクールガーデンさんに対しては、子どもたちは普段個々に接するしているが、来年度は、全校朝会など全校が集まる場に来ていただき、直接お話を貰える機会をもつなど、地域のよさに関わる取組をカリキュラムに位置付けるよ。	A A
	子どもたちは、行事や異学年との活動などを通して、所属感をもち、規律を守り、人と関わるよさを味わっていたか。	A	・振り返りシートやふわふわカードの活用交流	・異学年と交流することで、上の学年は普段よりも頑張ることができ、下の学年は上の学年を見て、見通しをもてるよい機会となっている。今後も、今あるふれあい活動を継続し、交流の機会を大事にしながら育てていこう。	A A
	子どもたちは、体育年間カリキュラムに基づき、「運動ドリル」を積極的に活用することで、様々な運動に慣れ親しみ、体力を高めていたか。	A	・ショート研修の実施 ・運動会の在り方の検討 ・体育年間カリキュラムの運営誌への掲載と推進	・ショート研修を適した時期に行なうことを継続していくよ。 ・年間カリキュラムを運営誌へ掲載・推進予定。日常の活動に使いやすいものにしていく。また各担任は、一年間の中で短い時間でも継続して取り組んでいくよう、必要な時期・時間を考慮して、学習活動に運動ドリルなどを取り入れていく。 ・今年度、2種目ではあるが『アーススポーツテスト』を取り入れ、取り組んだ。その結果を今年度中に示し、次年度に生かしたい。	A A
「健やかな体」育成プログラム	子どもたちは、ICTを効果的に活用し、課題探究的な学習を進めることで、体を動かす楽しさや喜びを感じさせていたか。	B	・活用事例の交流 ・実践の紹介 ・環境の整備	・ICTを用いた「課題探究的な学習」を体育の時間に設定することは難しかった。 ・活用事例の交流・実践の紹介・体育の学習になかなか活用しづらい現状。ICTを使って学習しやすい内容の時期に、タイムシフトカーラなどの研修を行なってほしい。	A A
	子どもたちは、「運動したくなる」環境づくりや外遊びの励行等により、休み時間等で進んで体を動かしていたか。	A	・持続可能な提案を続ける。 ・体育館遊びについての見直し	・すこやかデー（3日程度）、運動や運動環境の提示・保健&給食の掲示物提示・食育放送などを実施してきた。短い時間の中でも「きっかけ」になればと想えての提案であるが、スポーツテストなどの結果に少しでも反映されることを期待している。 ・体育館遊びや冬季のグラウンド遊びも、「安全に体を動かしやすい環境か」を考えて励行していく。	A A
	子どもたちは、自分を見つめ、他者と関わり、自分に問い合わせることで、自らの健康づくりに対する意識を高めていたか。	A	・健康指導、食育指導を継続 ・給食時間の確認 ・食べる時間の確保と準備時間の在り方の指導 ・振り返る（見つけ直す）時間の創出	・健康指導、食育指導は十分に行なってきたが、その後の児童の実践や理解につながるよう、更に指導を継続していくことが必要です。 ・給食時間、食べる時間、準備時間において、食べる時間の確保で、食べられる量が少々増えたが、「食べない」と決めつけている姿も見られる。「少しでも」「一口でも」「苦手でも」挑戦してみる姿を求みたい。 ・振り返る時間の創出として次年度以降のキャリアパスポートに、項目の一つとして入れることを検討。	A A
	子どもたちは、事故や災害等の危険を理解した上で、自ら適切に判断し、主体的に行動できる資質や能力を育んでいたか。	A	・カリキュラムを評価と関連づける ・主体性を育むための指導を伴う振り返りやアンケートの実施	・今年度作成したカリキュラムと評価の関連一覧を活用して、年間の見通しをもって指導し、児童が主体的に行動できることを目指す。 ・振り返りやアンケートの実施→都度都度指導・指導をしている時には、災害時や避難時などに取るべき行動を理解できている。具体的な避難方法も回を重ねることでできるようになってきている。 ・廊下歩行・登下校・給食の食べ方などの、自分の体を守る行動について継続した指導が必要。	A A
	子どもたちは、特性や不登校などの状況に応じた学習支援や家庭・専門機関との連携等により、学びを進めたり、登校へつなげたりしていたか。	A	【支援】・スピード感ある対応(報連相)	・後期は委員会単位ではなく、該当児童担当者が対応を検討するケースが増え、一定のスピード感をもって対応することができる。反面、決まった対応等が担当外に伝わらず情報共有の面で課題が残った。一二回まで情報を周知・共有するかについては手探りとなるが、校務支援のメッセージ機能を活用しながら幅広くこまめに情報を発信できるようにしていく。	A A
不登校・支援	【不登校】・「放課後登校DAY」の継続 ・相談支援パートナーの活用 ・保護者への支援 ・職員の情報共有	B	・相談支援パートナーの方による支援で、学力不振と不登校の連鎖を断ち切ることができるような「三間」の確保が肝要。担任一人の抱え込みをふせぐ学校の体制づくりを目指した。		A A
			・北の沢小学校の子どもたちは、外遊びが大好きで元気で気持ちがよい。 ・素直な子どもが多い。 ・健やかな体部の取組はとてもよいが、小学生の発達段階を加味した内容を実施するとよい。		A A

学校関係者評価者による意見